

9月10日(日) 友好都市交流サッカー教室

市内の小・中・高校生のサッカー部員 140 人が参加して、菊池北小学校体育館と市中央グラウンドを会場に、サッカー教室がありました。

友好都市岩手県遠野市との交流事業として行われたもので、元読売サッカークラブ主将の菊池洋二さん(遠野市在住)と、東京ヴェルディ 1969 普及育成チーフコーチの小川章さん(遠野高校出身)が指導しました。

教室では、ドリブルやリフティングの基礎のほか、講師を相手にミニゲームもあり、プロが演じるサッカーの技の醍醐味を身近に楽しみました。

この教室の主催は、友好都市と姉妹都市(宮崎県西米良村)との交流事業を行う市民グループ菊池都市間交流の会で、NPO 法人菊池市サッカー協会が共催し、若い世代に交流事業に触れてもらおうと遠野市で盛んなサッカーをテーマに開催されました。

「サッカーは止まるとはいけなく、ボールを保持し周りに目をくばり、考えながら動くことが大切」などと指導する小川さん(中央)



9月24日(日)メラリンピックに 菊池市民交流団が参加

菊池市が姉妹都市を結び宮崎県西米良村であったメラリンピックに、菊池市民交流団 12 人(団長・植田美加菊池都市間交流の会々長)が参加しました。

メラリンピックは、村内唯一の中学校(生徒数 27 人)と小学校(児童数 59 人)の運動会をかね、自治公民館の協力のもと幼児から高齢者までが楽しく参加できるものです。

菊池市民交流団は空き缶積みや風船ふくらましなどの種目に参加し、チームワークの良さのせいか 1 番でゴールしました。

交流団員からは「来年はぜひ菊池市チームを結成して勝利目指して頑張りたい」との声が聞かれました。

また、会場では「きくち観光物産館」による物産販売所も設けられ、梨やぶどう、栗など菊池の秋の食が披露されました。



新聞紙に風船を乗せて走る難しい競技に参加した市民交流団員(中央)

9月23日(土) 平成18年度菊池市金婚夫婦表彰式

菊池市金婚夫婦表彰式が、熊本日日新聞社の「第 48 回金婚夫婦表彰」と併せて文化会館で開催され、昭和 31 年に結婚した 126 組の夫婦に授与されました。

泗水の井上博さん・玲子さん夫妻に代表して表彰状と記念品が授与され、七城の豊田武敏さん・照子さん夫妻が代表謝辞を述べられました。

その後、50 年の永きに亘り連れ添ってきた配偶者へ感謝の気持ちを込めて、「旦那様から奥様への感謝の言葉」を、代表して菊池の渡邊康助さん・和子さん夫妻と、池邊義一さん・ミネ子さん夫妻が、「奥様から旦那様への感謝の言葉」を、代表して旭志の田崎隆継さん・エミ子さん夫妻と、泗水の伊牟田昭一さん・美佐子さん夫妻からそれぞれ伝えていただきました。

アトラクションでは、落語家の立花家千橘(たちばなやせんきつ)氏が講演し、参加者は楽しいひとときを過ごしました。



代表謝辞を述べる七城の豊田武敏さん・照子さん夫妻

9月22日(金)・10月6日(金)保育園児が ドライバーに安全運転を呼びかけ

菊池保育園 17 人などが 22 日に野間口付近の国道 325 号沿いで、さくら保育園の園児 13 人などが 6 日に同園近くの国道 387 号沿いでそれぞれ車のドライバーに交通安全を呼びかけました。

9 月 21 日から 9 月 30 日にかけてあった「秋の全国交通安全運動」の一環として行われ、園児たちは交通安全のチラシや反射材入りのリストバンド、キャンディー、「交通安全」と書かれた手作りのお守りなどを手渡し、「安全運転をお願いします」と呼びかけました。

通りかかったドライバーたちは、園児からの突然のプレゼントと呼びかけに驚きながらも笑顔で答え、安全運転を再認識していました。



「安全運転をお願いします」と呼びかけながらドライバーにお守りなどを渡す、菊池保育園(上)とさくら保育園(右)の園児たち

8月13日(日) 空手道 空心会60周年記念大会

益城体育館で、海外からの参加者もあり、総勢 600 人あまりの参加者の中、熱戦が繰り広げられました。

菊池市から参加した拓魂塾と烈士館の成績結果は、次のとおりです。(敬称略)

- ▼小学1・2年男子形 1位 上野翔暉(烈士館)
- ▼小学1・2年男子組手 1位 梶原悠聖(烈士館)
- ▼小学3・4年男子形 1位 益崎 誠(拓魂塾)、2位 長尾浩平(烈士館)、3位 岩崎匠真(烈士館)
- ▼小学3・4年男子組手 2位 上田桂靖(烈士館)、3位 益崎 誠(拓魂塾)、3位 大城戸永吉(烈士館)
- ▼小学3・4年女子形 1位 角田祐里子(拓魂塾)、2位 田代麻衣(拓魂塾)、3位 松谷海里(烈士館)
- ▼小学3・4年女子組手 1位 田代麻衣(拓魂塾)、3位 松谷海里(烈士館)、3位 長尾有梨(烈士館)
- ▼小学5・6年男子形 2位 角田耕一(拓魂塾)、3位 岩永祐貴(拓魂塾)
- ▼小学5・6年男子組手 1位 益崎 豊(拓魂塾)、3位 出口誠也(拓魂塾)
- ▼小学5・6年女子形 1位 田代真麻(拓魂塾)、3位 出口 遥(烈士館)
- ▼小学5・6年女子組手 1位 田代真麻(拓魂塾)
- ▼中学男子形 1位 田代大周(拓魂塾)、2位 中野瑞樹(拓魂塾)
- ▼中学男子組手 1位 田代大周(拓魂塾)、2位 田代幸太郎(拓魂塾)、3位 田代 峻(拓魂塾)
- ▼中学女子形 1位 松村菜々(拓魂塾)、2位 益崎 優(拓魂塾)
- ▼中学女子組手 1位 松村菜々(拓魂塾)、2位 赤木 希(拓魂塾)



拓魂塾の子どもたち



烈士館の子どもたち

9月22日(金)、9月29日(金)旭志中で乳児ふれあい学習

旭志中学校の2年生 59 人が、乳児とのふれあい学習をしました。

9 月 22 日(金)には、開業助産師の小野田先生をお招きし、「自分は3億分の1の確率で生まれた命であること。また、命はつながっていく」という感動的なお話を聴きました。

その後、シミュレーターを使った妊婦体験を行い、全員がしゃがんだり、爪を切ったりする動作などを通して、妊婦さん(自分たちを生んでくれたお母さん)の大変さを体験しました。

9 月 29 日(金)には、生後 2~10 カ月の赤ちゃんとお母さん 12 組に協力をいただき、乳児とのふれあい体験をしました。

育児真っ最中のお母さんに、育児に関する質問をしたり、体重測定に際して衣服の着脱や赤ちゃんを抱っこしたりする中で、自分もこんなに大事にされてきたんだということを振り返りながら、親となることの責任や育てる喜び、乳児のかわいらしさなどをそれぞれに感じ取ってくれたようです。

この事業は、思春期の子どもたちが乳児とふれあうことで、命の尊さや子育ての大切さ、母性・父性について考える機会とするため、家庭科の時間を使って、市と中学校の共催で毎年実施しています。



学習に協力した 12 組の親子。学習の趣旨をご理解の上、快く参加して頂き、ありがとうございました



シミュレーターで、自分たちを生んでくれたお母さんの大変さを体験する生徒たち



お母さん(左)から、妊娠中の胎児の様子を聞く生徒たち